

『太平記』に見る神功皇后

三石神社 宮司 小林友博

発行所
三石神社社務所
神戸市兵庫区
和田宮通3丁目2-51
TEL (078)671-2531
FAX (078)671-7667
E-mail info@mitsuishi.or.jp
URL https://www.mitsuishi.or.jp

○ ご家庭・会社事務所に神棚を祀りましょう。
○ お伊勢さんのお神札(神宮大麻)と三石さんのお神札を合せ奉斎しましょう。
○ お神札は、毎年末もしくは新年に新しく改めてお祀りしましょう。

日本古典文学大系 (岩波書店) の『太平記』

師走の候、氏子崇敬者の皆様におかれましては、ご健勝にてご活躍のこととご同慶に存じます。又、年頭の正月より一年間各種神事行事に対しましてご崇敬ご奉献を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、当社社御祭神である神功皇后の事績は軍記物語『太平記』に見ることができる。『太平記』は一般に、南北朝の建徳元/応安三(一三七〇)年頃の成立とされ(作者は、特定されていないが、小島法師、恵鎮、玄恵らの名が知られている)、神功皇后の事績は『日本書紀』によれば、仲哀天皇二(一九三)年に皇后となつてから応神天皇の摂政六十九(二六九)年の間に見られ、神功皇后と『太平記』とは約一〇〇〇年の隔たりがあるにも拘らず、『太平記』に神功皇后の事績が記事として取り上げられている。

まず、『太平記』巻第十の「稲村崎成三千瀧事」の条に、元弘三/正慶二(一三三三)年五月の新田義貞の鎌倉攻めの時、稲村崎に着いたが、砂浜の路は狭く、鎌倉方は波打ち際まで逆木を設け、沖には矢倉を設けた大船を並べて待ち構えていた。これを見た新田軍の誰もが進軍は叶わず引き上げるが上策としたが、新田義貞は龍神に向つて祈誓し、龍神納受し給へと佩ける金作の太刀を抜いて海中に投げ入れると、俄かに潮が引き陸地が現れ矢倉大船も遙か沖に漂つていった。これを見た義貞は、神功皇后は新羅を攻めし時、干珠(古事記)、『日本書紀』にいう塩乾玉(かじゆ)のことを海に投げ潮水を遠くに退かし戦勝した。今潮が引いたことは神功皇后の佳例の奇瑞であるとして直ちに鎌倉攻めに進軍し勝利した。また、巻

第三十九の「神功皇后改^め新羅^{しんろ}給事^{くふ}」の条には、神功皇后が阿^あ度^{とく}部^ぶ（福岡県福岡市東区志賀島に鎮座の志賀^し海^{かい}神社^じの祭神）の磯^い良^らを使いとし、龍宮城の宝である干珠・満^{まん}珠^{しゆ}を借り、これによって高麗国を平定したとする記事が見える。神功皇后は龍神から干珠・満珠を授かっているが、死後に朝廷による国家守護神に崇められ、『八幡愚童訓^{はちまんぐどうくん}』（鎌倉時代後期に成立したとされる石清水八幡宮（京都府八幡市八幡高坊に鎮座）の靈験記で、作者未詳）が著されるに、武人から勝運の神と崇められ、更に庶民からは安産の神、万能の神として崇め奉られていく。

新田義貞も神功皇后死後一〇〇〇年も過ぎているのに、神功皇后の神徳に倣^{なま}って龍神に金作太刀を献じ、龍神の干珠の靈力を授かっている。これ偏に神功皇后の「徳」と「信仰」が高かったことを表わしている。

氏子崇敬者の皆々様も、当社の御祭神である神功皇后に参拝され、皇后の高く尊いご神徳を受けられ、各位が益々が繁栄ありますことをご祈念申し上げます。



令和八年 年頭授与絵画
美鳳 画

令和六年十一月

全国白バイ競技大会優勝御礼参拝



新聞の優勝報道記事

八日、全国白バイ安全運転競技大会優勝御礼参拝を齎^あ行^なした。

白バイ乗務員の運転技能の向上と、受傷事故の絶無を期すると共に、乗務員の士気の高揚と道路交通の安全維持に資するために、十月十二日、十四日の間、茨城県ひたちなか市で開催される第五十四回の全国白バイ安全運転競技大会に先立つ、十月二日に監督（警部補）始め選手（男性四名・女性二名）、引率者一名が団体優勝・並びに個人総合・種目別入賞祈願参拝し、各自当社の「勝御守」を身に付け大会に臨んだところ、団体戦では優勝決定戦で最終競技までもつれ込んだが、三石大神の「勝御守」ご守護を賜り、見事二十六年ぶりの二度目の団体優勝を成し遂げ、

個人総合・種目別でも入賞を果たした。

当日は平服姿であったが、監督他選手六名と引率者の八名が参拝し、監督の団体優勝・個人入賞御礼の玉串奉奠に合せ選手達も深々と拝礼した。

令和六年十二月

境内大絵馬掛け更新設置



更新完成の大絵馬

二十五日、数十年前に設けた境内の干支絵画大絵馬本体は木枠の腐食、トタン板の塗装も不具合となり、毎年干支絵書き換えを依頼している（備ヒカリ工芸社の施工により、此度更新設置した。絵馬本体は木枠組立・屋

根本製塗装仕上げである。

絵馬は、神社に馬を奉納するかわりに板に馬を描いたものとする説と、身体の患部を描いたり、厄除・家内安全・諸願成就などの祈願の形式をとって奉納する説などがある。

氏子崇敬者皆々様も当社オリジナルの「神功皇后祈願絵馬」に願意を書かれ奉納祈願してご守護をお受け下さい。

令和七年一月

年頭氏子崇敬者繁栄祈願齋行



ご神前での腹話術奉納

正月三日、「氏子崇敬者繁栄祈願祭」を総代・氏子崇敬者二十四名の参列のもと厳かに斎行し、今年一年

の参列者各位はもとより、氏子崇敬者更に各事業所の安寧と繁栄を祈願した。

本年の神前奉納は、全日本あすなる腹話術協会本部長・腹話術師の福小介先生である。

ご神前に運び込んだ旅行ケースの中から取り出した男の子の人形を相手に、人形に四種類のカツラを取替え、巧妙な腹話術を披露、更に和服を着た女の子の人形も取出し、腹話術にて人形同士の滑稽な会話を披露し、参列者も先生の高度な腹話術演技を目の前で観賞し、大いに満悦であった。



鳥居前での参拝者集合記念写真

式典後、参列者一同破魔矢を持ち、鳥居前にて記念写真を撮り、会館二階にて恒例の直会を執り行つた。

令和七年三月

潜水艦の艦長ら参拝



十九日、三石大神神棚を祀る潜水艦「たいげい」の艦長以下五名が冬服常装姿で参拝した。

の安全健康祈願のため、当社三石大

潜水艦「たいげい」は、令和四年の竣工就航に際し、航行安全と乗組員



神の神棚を艦内に奉安しており、この度試験潜水艦への艦種変更のため、建造した三菱神戸造船所に入っていたが、その工事も終了し航行する事となり、出航に先立ち航行安全祈願の為参拝に訪れた。

令和七年五月

例大祭齋行



令和七年神幸式(雨天中止) 会館での猿田彦・宝持ち青少年少女との記念写真

大祭前の五月十日、猿田彦氏子当番地区の釜須・高口両神社役員総代、片田猿田彦会会長・吉岡副会長の参列のもと、昨年雨天中止で奉仕出来なかつた為、本年も猿田彦役を務める兵庫区切戸町六丁目の植田光

君(二十五歳)の猿田彦決定奉告祭も齋行され、大祭日の五月二十三日(金曜日)、午後六時からの例祭には、区内神職三名のご助勤奉仕により、神社役員総代・氏子会総代始め氏子崇敬者十六名の参列のもと、例年通り巫女による神前神楽も奉納し厳肅に齋行した。後、会館二階にて直会に入った。

二十四日(土曜日)、本年は諸般の事情により御旅所を設置出来なかつたが、午後一時半より、氏子会総代・氏子役員・自治会関係者の指導により、子供みこしが巡行する予定であったが、当日の天気予報雨天により二十三日早々に中止を決定した。

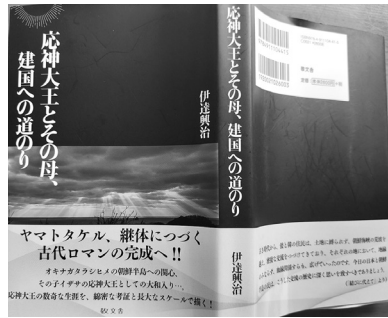
二十五日(日曜日)、例大祭最大の神事である神幸式は、本神輿氏子担ぎ手不足のため已む無く、前日の子供みこし巡幸に続き神幸式中止を決定した。

午後、神宝持奉仕少女達には、会館にての写真撮影のため、装束着装時間に参集してもらい、猿田彦を含めた集合記念写真を撮り、後日配布した。

尚、午後六時からの氏子会・猿田

彦会の合同直会は神幸式中止であったため取り止めとした。

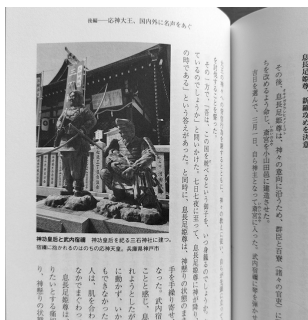
御礼書籍



本の写真

五月下旬、東京の(株)敬文舎より御礼として四六判書籍『応神大王とその母、建国への道のり』が贈られてきた。

四月上旬に、(株)敬文舎社長から電話が入り、五月下旬に発刊予定している伊達興治先生の前記の著書中に、三石神社の「神功皇后像」の写真に掲載したいので、その承諾と、併せて銅像の写真を送っていたら、併せての依頼があり、承諾して写真を送付した。発刊後の御礼贈本となった。本の表帯には「オキナガタラシメ(神功皇后のこと)の朝鮮半島へ



書籍中の当社 神功皇后像の写真

の関心、その子イザサの応神大王(応神天皇のこと)としての大和入り…。応神大王の数奇な生涯を、綿密な考証と長大なスケールで描く!、裏帯には「古き時代から、倭と韓の住民は、土地に縛られず、朝鮮海峡の荒波を越え、密接な交流をつづけてきており、それぞれの地において、地縁のみならず、血縁関係すらも、広げていった。今日の日本と朝鮮半島の民は、こうした交流の歴史に深く思いを致すべきである」と記され、後編の「応神大王、国内外に名声をあぐ」の「息長足姫尊、新羅攻めを決意」の条に、当社の「神功皇后と武内宿禰」像の写真が挿入され、「神功皇后を祀る三石神社に建つ。宿禰に抱かれるのはのちの応神天皇。兵庫県神戸市」の説明文が記載されている。また、巻末の写真提供・協力

者一覧にも「三石神社」の名が見える。本書は、「記紀」の記事を基にし、「記紀」に見られない著者の考証歴史論を述べており、興味深い著書である。

令和七年七月

夏越祭(夏祭り) 齋行



茅の輪ぐり神事

十七・十八日の両日、相殿に祀る素盞鳴命の夏越祭は、疫病退散・無病息災祈願の祭であり、一人でも多くの氏子並びに崇敬者の方々が無病息災で過ごしていただけるよう従来通り茅の輪ぐり神事を齋行した。十七日午後六時からの殿内祭典には、釜須神社役員総代・氏子崇敬者・神前奉納者など二十一名参列のもと、宮司が大祓詞・祝詞奏上の後、昨年も神前奉納していただいたファイ・オーナー・プアハラ・アロハ



「大茅の輪」用ちがやを奉納する
三菱電機(株)神戸製作所社員

(フラダンス教室、代表山上菜穂氏)の生徒さんで、各ハワイアン大会で優勝経験もある三名(小学生)によるフラダンスが神前奉納された。
一曲目は、小学生二名による自然を讃え感謝する古典フラダンスで、二曲目は、神戸も震災による火災経験もあり、震災を何時までも忘れないうために神前奉納に選曲したという小学生一名による山火事で焼けてしまったマウイ島ラハイナの様子を表現した現代フラダンスである。参列者も小学生の上手な、また愛らしいフラダンスを鑑賞して感銘を受け盛大な拍手を送っていた。
次に参列者代表各位が玉串奉奠した後、境内に設けた「大茅の輪くぐ

り」神事では、「大茅の輪」には、三菱電機(株)神戸製作所より奉納された「ちがや」も用いている)、宮司・禰宜に続き参列者一同が「蘇民将来、蘇民将来」と唱えつつ左・右・左とくぐり、人が知らず知らずのうちに

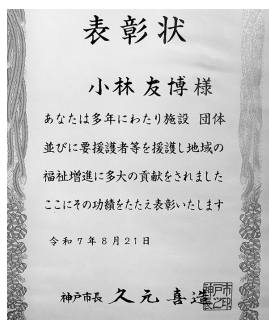


神前でのハワイアン奉納

犯した罪や過ち、心身の穢れを祓い清め、また流行り病の無感染、夏の無病息災を祈願し、二Fにての直会では神職手作りで無病息災のご利益ある「蘇民将来茅の輪守」を配布し無事斎了した。

令和七年八月

宮司、神戸市長表彰を受ける



神戸市長の表彰状

宮司は、令和六年十一月の兵庫県更生保護大会で、「あなたは保護司として永年にわたり保護観察対象者の改善更生と犯罪予防活動に努められその功績は誠に顕著でありますよって永年功労者として表彰します」と、神戸保護観察所長の表彰状を受けたが、それに続けて、二十一日、神戸文化ホールで開催された令和七年度神戸市社会福祉大会(主催、神戸市・神戸市社会福祉協議会・

神戸市民生委員児童委員協議会)、宮司が多年にわたり保護司として活動した功績を讃えるとして(要援護者等を援護し、地域の福祉増進に貢献している福祉事業協助者)、久元神戸市長から表彰状が授与された。

令和七年十月

「兵庫運河祭」の安全開催祈願祭奉仕



会場での安全開催祈願祭

五日の日曜日午前十時四十五分、新川運河キャナルプロムナードの2025年兵庫運河祭メイン会場にて、祭の安全祈願祭を奉仕した。
兵庫運河祭は十数年前より開催されたが、兵庫津地区には神社仏閣が

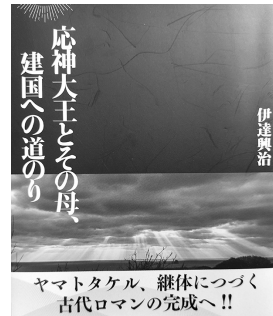
多くあることにより、六年前より神社仏閣輪番のご奉仕により兵庫運河祭の安全祈願祭を執り行う事と成りよみがえる兵庫津連絡協議会高田会長、兵庫運河祭実行委員会（兵庫区役所地域協働課）藤田実行委員長らの依頼により、本年は当社が奉仕した。

当日は小雨の中、「ただ今からイベントの安全開催の祈願式を執り行います。祈願式は三石神社小林宮司様にお願いたします」との司会者の案内で始まり、修祓、降神、献饌、兵庫運河祭安全開催祈願祝詞奏上、切麻による祭会場全体の修祓、齋主・参列者玉串奉奠等を持ち時間の十五分間で齋了した。その後雨は上がり、メイン会場でのイベントを始め、キッズコーナー、飲食ブース、また近くの神戸中央卸売市場では生鮮食品販売も行われる「市場まつり」も開催されており、多くの人で賑わっていた。



シリーズ

書籍に見る三石さん



『応神大王とその母、建国への道のり』

当機関紙の令和七年五月の行事報告記事でも記したが、本書は(株)文舎から2025年五月二十七日に発刊(四六版、定価二、六〇〇円+税)された。

著者は既に『倭国創世紀—ヤマトタケルの物語—』『継体大王遠征紀』(共に(株)敬文舎発行)などを発刊している伊達興治氏である。

本書は神功皇后と子である応神天皇の事績を「記紀」の記事を基にしていて、「記紀」に見られない著者検証の史論を記している。「後編—応神大王、国内外に名声をあぐ—」の「女王軍(神功皇后軍)、播磨沖での開戦を制す」の条には、淡路島の東影(岩屋港)に潜んでいた大和側(麿坂・忍熊両王軍)の軍船が姿

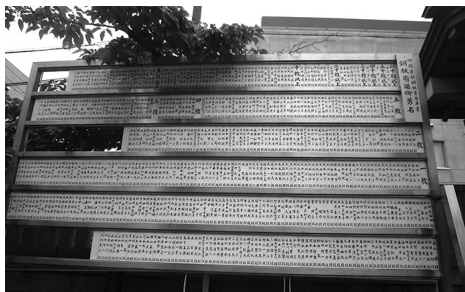
を現し、筑紫勢(女王軍)に背後から攻めかかった。態勢を崩されていた主力をなす大和勢も、辛うじて息を吹き返し、筑紫勢を迎え撃たんと身構える。ここに、和田岬の東の海域にて、両軍が対峙したまま、夕暮れを迎える」と、和田岬が見え、また、「この海域の潮流の異常は、なかなか復旧の兆しをみせなかった。そこで、神功女王(神功皇后)は、平穩に海を渡ることができるよう、海の神々に祈りをささげた。「中略」、神々を祀った甲斐あつてか、数日後には潮流は落ち着きをみせてきた。女王軍は、海域の安全を見極めると、

武庫水門(務古水門、大輪田泊ともされている)を出て茅渟の海(大阪湾)の最奥部を目指した」と、神功皇后が祈りをささげたと見えるが、当社の鎮座由緒である神功皇后が潮流で船が進めなくなると、和田岬に上陸し、三つの石を立て神占いをしたことが記されていないことは残念である。著者が当社に取材訪問したこともないのではないかたない。

尚、「息長足姫尊、新羅攻めを決意」の条には、当社が提供した「神功皇后と応神天皇を抱いた武内宿禰

像」の写真が掲載されている。本書は前記のように歴史小説風であり読みやすいので、氏子崇敬者の方々も一読されてはいかがでしょうか。

社殿屋根葺き替え事業・銅板(含)申込・分納・追加、御寄進者ご芳名、令和六年十一月から、令和七年十月末日まで、順不同・敬称略、銅板奉納者全ての方々のご芳名は、神社台帳に記録の上永く保存させていただきますが、境内掲示板のご芳名掲示は三枚以上とさせていただきます。



境内の奉賛芳名掲示板

ご寄進誠にありがとうございます。厚く御礼申し上げます。

趣意とお願い

現社殿は昭和三十八年に竣工して、約六十年が過ぎました。

銅板の寿命は約七十、一〇〇年といわれています。そこで将来銅板屋根の葺き替えを行なわなければなりません。

そのような事情により、皆々様に銅板寄進（一枚三千円）をお願いいたしております。

社殿銅板屋根にあなた様のお名前を残し、更なる三石大神のご加護により、貴社・貴家の益々の弥栄をご祈念申し上げます。ご案内申し上げます。

既にご奉納いただきました方々には重ねてのご案内となりました。ことをご了承下さい。

尚、はじめ銅板一枚二千円といたしておりましたが、銅の値上がりもあり、三千円（二、五枚と計上）とさせていただきます。宜しくご理解ご了承をお願い申し上げます。

服忌について

家庭にご不幸があった場合、一般的には五十日間を忌中として故人を偲び、神棚に半紙を貼るなどしておまつりを遠慮します。

忌が明ければ神棚もおまつりし、通常の生活に戻ります。

忌の期間が正月をまたぐ場合は、忌が明けてから神社の参拝、また、お神札を受けても差し支えありません。

なお、親戚の方が亡くなられた場合は、お葬式を出したお家でなければ、葬儀告別式後通常のおまつりをして問題ありません。

三石神社諸祈禱ご案内

【殿内個人祈禱】

（殿内における各種祈禱）

家内安全、病氣平癒、安産、初宮詣、七五三詣、学業成就、厄除、交通安全、その他

【会社・事業所安全繁栄祈禱】

（会社・事業所団体祈禱は事前ご予約願います）

【出張祭典】

（諸準備の為、事前ご予約願います）

起工・地鎮祭、上棟式、竣工式、入居清祓式、神棚祭、各種安全祈願祭、その他（含 神葬祭）

印刷所

(有)前川企画印刷

神戸市兵庫区永沢町三丁目三十一

TEL (078) 5771-2488

FAX (078) 5771-7320